

令和元年度 草の根・人間の安全保障無償資金協力  
「ホルス村灌漑貯水池への水道管敷設計画」供与式の実施

令和 3 年6 月 29 日、草の根・人間の安全保障無償資金協力「ホルス村灌漑貯水池への水道管敷設計画」（贈与金額：84,120 米ドル(9,253,200 円)の供与式が、ヴァヨツ・ゾル州のホルス村において行われました。本式典には、福島正則在アルメニア日本国大使、アラト・グリゴリャン・ヴァヨツ・ゾル州知事、アーター・ステパニャン・同州イエゲギス地区長、シュマヴォン・アラグリャン・ホルス村長、被供与団体であるオオツノヒツジ自然保護 NGOより、サンヴェル・ゲガミャン・プロジェクトコーディネーター及びパートナー団体より代表者らが出席しました。

本案件は、ヴァヨツ・ゾル州イエゲギス地区ホルス村において、山岳部の水源地から灌漑用貯水池までを繋ぐパイプラインを整備することにより、同村の水量を増加させ、乾季にも灌漑用水を供給できるようにすることを目的としています。本件の実施により、同村の農家 420 人が裨益します。

式典の冒頭、ゲガミャン・オオツノヒツジ自然保護 NGO・プロジェクトコーディネーターは、歓迎の辞を述べつつ、日本政府及び当館に対し、今回の支援及び灌漑用貯水池にパイプラインが計画通りに整備されたことへの謝意を表明しました。

これに対し、福島大使は、本件が実施された結果、420人以上もの人々が灌漑用水を持続的に利用できるようになったことを嬉しく思うと強調しました。また、同国の経済発展に及ぼす農業セクターの重要性を考慮すると、灌漑へのアクセスを改善することで農業効率を向上させようとする本件の目的は、アルメニア政府が掲げる政策上の重点分野と完全に一致するものであると付け加えました。

続いてグリゴリャン・ヴァヨツ・ゾル州知事は、まず福島大使の着任に対する祝意を述べ、二国間関係の更なる強化のために今後も一層貢献していきたいと前向きな意思を表明しました。また、同氏は、灌漑用水が増加するとともに、同村の生態系の持続可能性にも寄与する本件の実施を支援してくれた日本政府に謝意を述べました。

式典の最後に、コミュニティの代表者らは福島大使及び日本政府による貢献に対し謝意を表しました。



標高約 2,209m の高地に設置された浄水タンク。水を貯水地まで運搬させる機能を持つ。



福島大使に、灌漑用貯水池を案内するゲガミヤン・プロジェクトコーディネーター。



ODA プレートの除幕式の様子。



除幕式後の福島大使、グリゴリヤン州知事及び関係団体の代表者たち。

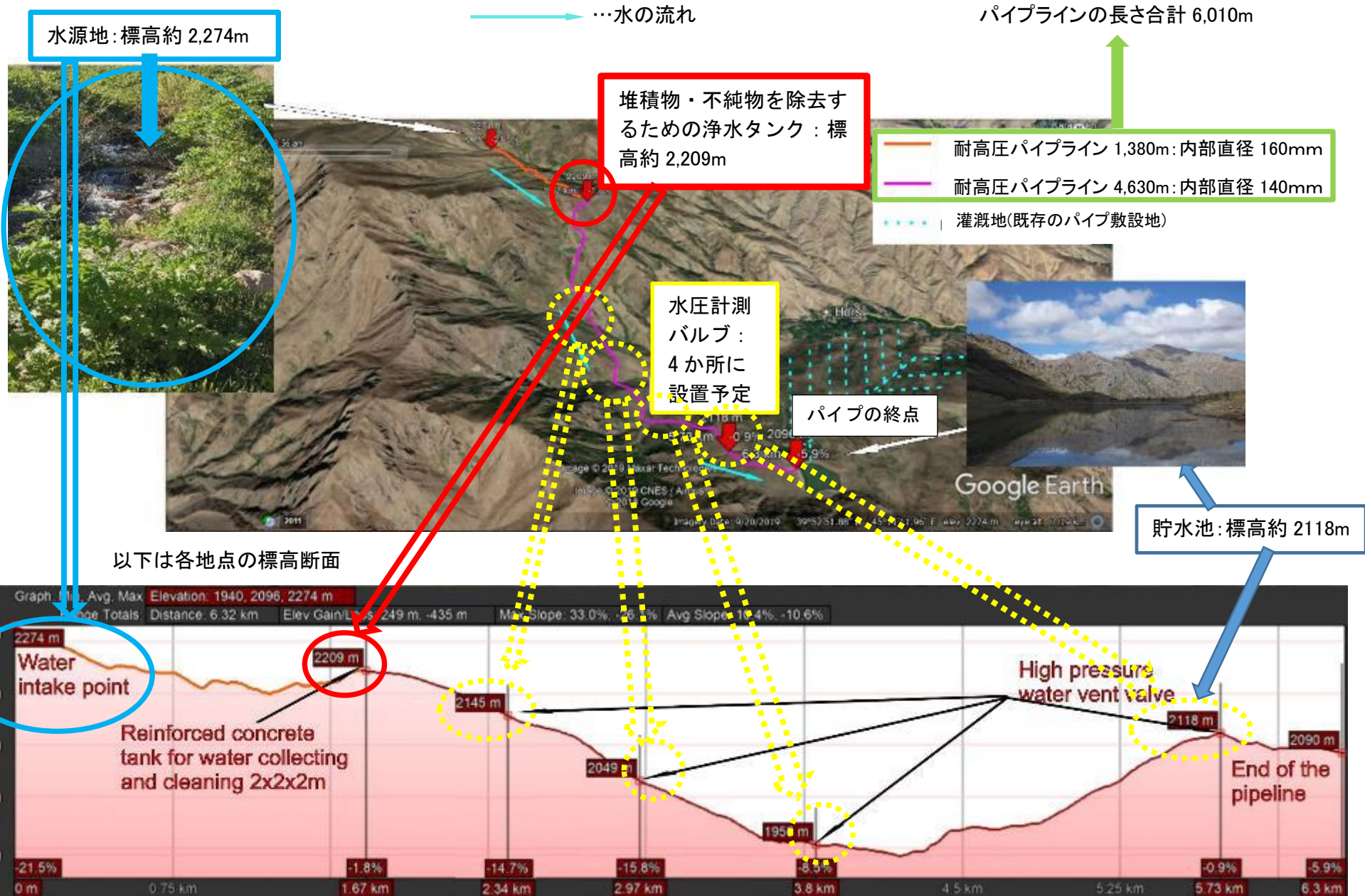


祝意を述べる福島大使。



スピーチを述べるグリゴリヤン州知事。

案件概念図



案件概念図

